平成３０年度『緑葉』巻頭言

「まず、一歩から」

高志中学校　校長　山川満寬

昨年の年末、漱石の成績発見をＮＨＫがトップニュースで報道しました。関係者の皆さんによる地道な調査と、必然としか思えないような偶然が重なり、この大発見につながりました。

昨年３月に県ふるさと文学館の文学講座の講師として中島国彦氏（早稲田大学名誉教授）が来福。その際、漱石研究家である中島先生に、県こども歴史文化館（以下、こ歴）が調査中だった、漱石が芳賀矢一（福井県出身）らに宛てた葉書を鑑定いただきました。５月、こ歴がその葉書を公開したところ、報道を見た方から、漱石と矢一との関係を語るなら、両名の恩師である松本源太郎にも注目すべきとの情報がこ歴に寄せられました。松本は越前市出身の教育者で、第一高等中学校（東京大学教養学部の前身）の教師だった際に、漱石や矢一らに論理学を教えた人物です。松本の遺品が越前市に寄託されていることを知ったこ歴は、市史編さん室の協力を得て膨大な資料群を調査し、遂に漱石の論理学の成績を発見するに至りました。

漱石による矢一宛ての葉書の調査が契機となり、たまたま講演のために来福されていた漱石研究家との縁が深まり、さらに偶然にも寄せられた松本に関する情報をもとに調査を進めていった結果、彼が残した膨大な資料群にたどり着き、さらにコツコツと資料整理と解読を積み重ねた結果、やがて大きな発見につながった訳です。関係者が好奇心と探究心を持ち続け、そして「もう一歩踏み出したら新展開があるかも」と諦めることなく、周囲からのサポートもあって歩み続けたことが、今回の大発見につながっていきました。

　３年生の皆さん、卒業おめでとうございます。３年前、小学生や中学生だった皆さんは、数ある中学や高校の中から高志への進学を心に決め、合格に向けて行動し、入学を果たしました。そして今、３年間の経験を礎に次のステップを踏もうとしています。新たな門出にあたり、改めて、一歩を踏み出すことについてお話したいと思います。

私ごとですが、昨年４月から水泳教室に通い始めました。当初、クロール２５ｍで息が上がり泳げなかった私も、やがて５０ｍまで伸び、今では３０分かけて５００ｍ泳げるようになりました。因みに最終目標は、休憩なしで１時間泳ぎ続けることです。

水泳を始めて、いくつかの変化が現れてきました。週１回の練習に過ぎませんが、職場や家庭での段取りをより意識するようになり、また、７５分間の「授業」に出席し続けられるだけの体力・体調の管理も心がけるようになりました。さらに、もっと上手くなりたいという欲と同時に、なかなか上手くならないもどかしさも感じるようになり、週２回練習するためにはどうすべきか考えるようになりました。

大したケーススタディにはなりませんが、私の経験を抽象化すると、「一旦目標を決めると、その実現のために、直接的な関わりだけでなく、間接的な関わりも含めて、あらゆることを絡めて意識するようになる」となります。また、こんな格言も当てはまるでしょう。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」

明確な目標を立て、実現に向けてタイムスケジュールを決め、計画的に進めることが理想的です。私も日ごろから皆さんに目標や計画を定めるように勧めています。でも、例えば、今皆さんが進もうとしている進路。不安や、ひょっとしたら迷いが残っている人はいませんか。

何か物事を判断する時、常に目標がしっかりと定まっているとは限りません。ちょっとした興味や関心、好奇心を感じる程度のこともあるでしょう。そんな時どうしますか。やらない理由を見つけて自分に言い訳するか。とりあえずやってみて失敗して後悔するか。

皆さんの先輩で映画プロデューサーの渡邉一孝さんは、２月に行ったグローバルミニ講演会の中で、「不確定なことに確信的に取り組む」ことが重要であり、これを可能にするためには企画の意味付けと実施する理由付けが必要とおっしゃっていました。

この言葉を私は次のように理解しました。「迷いや不安があったり、目標が定まっていなくても、それを行う意味をよく考えて、自分を信じてとりあえずやれるところまでやってみる。企画や理由に共感してくれる人たちが必ず存在し、応援団としてサポートしてくれるようになる。」

特に中学生の皆さんは、「将来なりたいものが見つからない」「何に興味があるか分からない」といった悩みや疑問を持っていたり、将来の目標や興味・関心事が見えている人でも不安や迷いを感じているかもしれません。

少し乱暴かもしれませんが、じっと逡巡し続けるのではなく、どんなに小さくてもいいので、まず一歩踏み出してみてはどうでしょう。自ら動けば必ず何かにぶつかり（巡り会い）ます。

　もう一つ、伝えたいことは、自分が限界だと思っているラインを決め付けないことです。目標や進め方を自分で決めることができる場合には、自分の都合（キャパシティ、時間など）だけを考えてスケジュールを立てることができます。しかし、時として、周囲の事情によって、大きな課題を担うこと（羽目？）になる場合があります。もちろん、自らの意思で自身に大きな試練を課す人もいるでしょう。

実は人生においてそのような「幸運」は、そう多くは到来しません。逆境を成長のチャンスととらえ、がむしゃらにぶち当たってみてください。巨大な壁の前で必死にもがいてみてください。期待した結果・成果が得られるかどうか保証の限りではありませんが、自分で限界だと思い込んでいたラインは、いつの間にか限界ではなくなっています。「それは到底無理」「どうせやってもできないから」と思わず、立ち向かってみてください。

まずは、第一歩から。そして、狙いが定まったら、その実現に向けて自分の限界に挑戦し、「克己」を体現してほしいと思います。皆さんの活躍のステージは大学や高校へとステップアップします。そこで大いにチャレンジし、失敗や成功を積み重ねて、やがて出て行くことになる大海原＝社会で、緑葉で培った力を礎に活躍されることを祈っております。